

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 横浜市立汐見台小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 11 「地域景観プランナーになろう」
单元名 (全70時間)	段ボールのまち汐見台プロジェクト
学習のねらい	・身近な材料からSDGsを意識した取組をすることを通して、まちの一員としてまちへの愛着をもとうとすることができる。
学習内容	1 今年度の材を決めよう 2 専門家から学んだ技を生かして交流しよう 3 まちの人の思いを知り、自分たちにできることしよう 4 まちの良さを発信しよう
参考資料 準備品 実施場所等	汐見台商店会、近隣幼稚園、自治会など 段ボール、カッター、ボンド、アクリル絵の具、装飾品

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	・既習の総合的な学習の時間を振り返り、今年度の方向性を整理	・既習の身に付いた力の整理 ・今年度身につけたい力を共有させ、学習計画を立てる	・発言 ・振り返り
2	・横浜市資源循環公社によるSDGs講座を受講、学びの整理	・コロナ禍による通販で増えた段ボールごみに着目させる	・振り返り
1	・段ボールを活用した活動について考える	・専門家から学ぶことに着目させる	・観察 ・ワークシート
4	・段ボール工作専門家による授業 ・共に工作する	・専門家の技、そこにかかる思いに着目させる ・段ボール工作の楽しさ、可能性を見出させる	・成果物 ・鑑賞 ・対話
3	・今年度の総合的な学習の時間のテーマについて話し合う	・本当に段ボール工作で資質能力の獲得、一年間の可能性があるのか検証させる ・ウェビングして可能性を探る	・ウェビング ・ウェビングを分類化

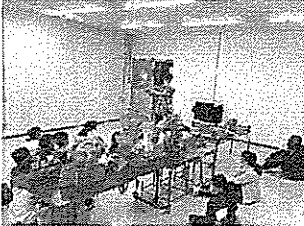


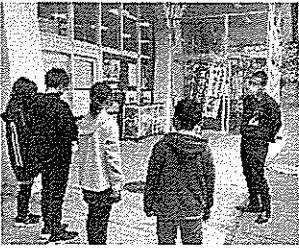
11	・段ボール工作活動	・専門家に教わった段ボール銃の作成だけでなく、相手意識、目的意識をもたせる
4	・1年生との段ボール銃交流	・交流後の振り返りを通して学びを整理する ・今回の交流を次への目的につなげる（地域に目を向けさせる）
10	・幼稚園2園との段ボール交流	・1年生との交流の改善点を生かす ・前回の交流との差を明確にする ・活動後の学びをイメージさせる
14	・地域向けの段ボール工作を考える①「顔はめパネル」「地域模型」「商店会看板」「レクリエーション」「椅子」	・作成中における課題を整理する中で、自分たちだけではできない時に専門家から学ぼうとする視点に着目させる
4	・段ボールアーティストによる授業	・必要感をもって専門家と関わる中で主体的に学ぼうとする
4	・印刷会社へのプレゼンテーション	・自分たちの活動を地域に広めようと環境に着目するステッカー制作を提案し、協力を得ようとする
22	・地域向けの段ボール工作を考える②	・成果物を地域に置いてもらえるよう交渉し、地域の方との関わりから学べるようにする


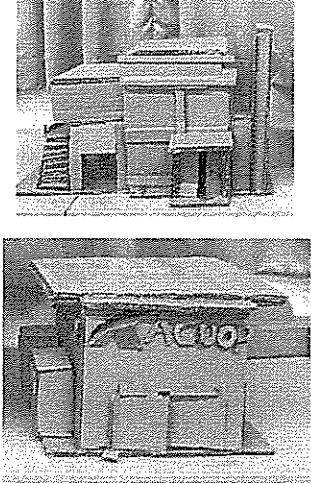
<留意点>

- ・段ボール工作では近隣スーパーに繰り返しもらう中で関わりをもつ
- ・自治会や商店会に繰り返し提案をしたり、取材をしたりして関わりをもつ

① 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立汐見台小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
4	校内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家による段ボール工作鑑賞</li> <li>・段ボール工作体験</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家の作品を見て圧倒、感動</li> <li>・自分達にも段ボール工作ができる感動、可能性の実感</li> </ul>
2	校内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生との段ボール交流</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールレクリエーション交流を通して、関わる楽しさの実感</li> <li>・段ボール再利用の魅力、活動の可能性実感</li> </ul>
6	幼稚園(2園)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園との段ボール交流</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想以上の園児の笑顔に喜び</li> <li>・自分たちの活動に自信をもつ</li> <li>・幼稚園の先生方との再会の感動、ほめられ自己肯定感の向上</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店会、自治会、地域の方々への取材や提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な関わりから地域の温かさを実感</li> <li>・地域の方々からの温かい言葉、協力で地域への親しみや感謝の心をもつ</li> <li>・地域の良さを認識して、さらに地域へ貢献したいという思いを強める</li> </ul>

2	近隣スーパー	・地域への成果物提案 「顔はめパネル」		・近隣スーパーに 展示していただくことで地域を より一層身近に 感じる
20	校内、地域	・地域への成果物提案 「地域模型」「商店会 看板」「レクリエー ション」「椅子」		・地域の方からの 感謝に感激した 事、完成した達成感 を得た

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールは可能な限り近隣スーパー、商店会からもらうことを通して関わる場面を増やした。同時に、地域の方との対話から地域の方の思いや自分たちの活動の方向性を考えたり、実感したりする場面を意図的につくった。</li> <li>・自己満足に終わらないように、専門家との出会いからよりよい作品づくりに努めようとする姿勢を向上させた。</li> <li>・仲間、校内児童、教職員、地域の方々など、様々な方と出会い関わる場面を創ることで、関わる楽しさを実感させながら色々な角度、立場、状況から物事を見る力を養えるように努めた。</li> <li>・「段ボール」という身近で繰り返し取り組め、SDGsに関係し、人と関われることを意識して材を設定したこと。</li> <li>・コロナ禍においては、人と直接かかわることができないことが多いので、顔はめパネル、模型、看板など鑑賞する成果物をつくることをゴールとしたこと</li> <li>・模型づくりでは、地域に何度も出向いて写真を撮ったり、地域の方に話を聞いたりして地</li> </ul>
--

<p>域の歴史や思いを知ることができるようにしたこと</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボール工作をする中で保管する場所。</li> <li>・環境問題に取り組む中で、段ボールの失敗作がごみになるなど本来取り組むべき目的と一部反したこと</li> <li>・安全面に配慮するために専門家からの指導、工作場面における安全環境などに配慮したつもりであったが、カッターで手を切るなどのけががあったこと</li> <li>・模型創りでは、</li> </ul>
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域に貢献したい」という思いでスタートした今回の取り組み。専門家の技に圧倒、感動する中で、実際に段ボール工作体験をして楽しさの実感、自分達にもできる可能性を感じて見通しをもって学習することができた。</li> <li>・地域の方の声に耳を傾け、関わる中で地域の方の思いを知り、地域に親しみをもつことができた。</li> <li>・「地域を盛り上げたい」という思いから取り組んだ成果物をつくるために、地域の方へ取材をしたり、調べたりする中で地域の歴史を知り、より地域に関する知識を獲得することができた。</li> </ul>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において地域との交流を躊躇していたが、意外にも受け入れをしてくださった。担任の思い込みで教育活動を制限してしまっていたことを反省するとともに、今後さらに感染策を講じながらできることを模索する必要性を感じた。</li> <li>・子どもたちが積極的に地域と関わろうとすると、その思いをくみ取り本当に協力をしてくださった地域の方々に心より感謝の思いを抱いた。</li> <li>・身近なことを材にし、少しずつ活動内容の質を上げることで子どもたちは楽しみながら、主体的に活動に取り組み学びを深めることができ、想定したよりも子どもたちの協働性が向上したことに驚いた。</li> </ul>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店会や自治会まで徒歩ですぐ着くが、繰り返し訪れることで移動時間の確保が難しいと考えられる。今後、授業時数削減によりこれまで余剰で行っていた移動時間の確保を総合的な学習の時間（年間）70時間に入れることが難しい。だからこそ、子どもたちに身につけさせる資質能力に迫るための手だて、授業の焦点化、関わる人の必然性の吟味はより一層必要になると考えられる。また、コロナ明けと言われる令和5年度を見据えた教育活動の在り方を学校全体として考え、実践する良さ、課題を分析した授業づくりが求められると思う。</li> </ul>